キャリアアップ通信

Vol.6　2021年　5月号
発行:医療局職員課

はじめに

皆さん、こんにちは！岩手県医療局職員課人事担当です。新年度も２ヶ月が経過し、転入・新採用の皆さんも少しずつ職場に慣れてきたのではないでしょうか。

さて、県立病院で働きながら資格を取得し活躍している職員を紹介する「キャリアアップ通信」の第６号が完成しました。今号では認定看護師（透析看護）、磁気共鳴（MR）専門技術者、内部養成助産師の３名の皆様を紹介します。

ぜひ今後のキャリアアップの参考にしてください！

県立病院の認定看護師への道　（緩和ケアなど 17 分野 98 名在籍）

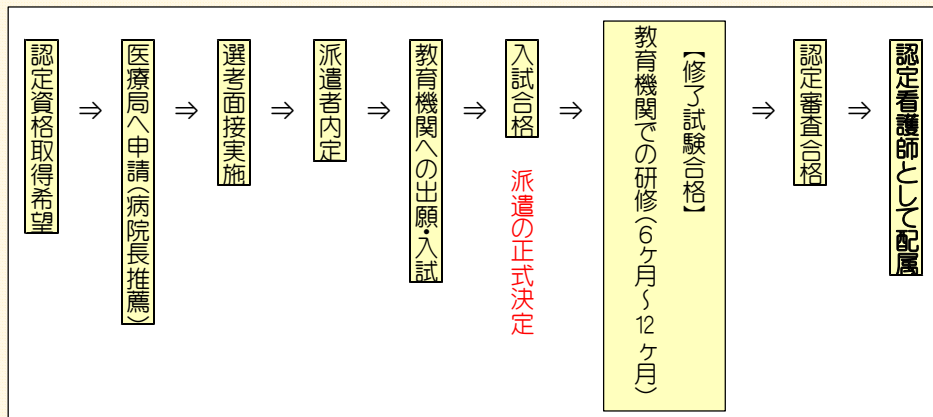
特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護職員を養成しています！

【対象者】

・看護師経験が概ね５年以上**（うち認定看護分野での実務３年以上）で 40 歳以下**の看護職員
　※医療局での選考後、派遣機関の入学試験合格をもって正式決定

【服務の取り扱い】

・派遣中は出張の取り扱いとし、**旅費等を支給**
・派遣中も**給与を支給**
・入学試験及び修了試験等に出席するための**旅費、審査料を支給**

【取得までの流れ】

磁気共鳴（MR）専門技術者への道　（県立病院に３名在籍）

【磁気共鳴（MR）専門技術者とは】

「最新の医療技術に対応した最善の画像情報を標準的に提供し、安全を担保することで国民の福祉と社会の発展に寄与する」ことを目的に MRI 撮像技術の標準的なレベルアップ、最先端技術をリードする技術者の育成、MRI 検査の医療安全を維持するため、日本磁気共鳴専門技術者認定機構が認定しています。

【認定試験申請資格】

1　構成団体への在籍：申請時に構成７団体(※)のいずれかに在籍し２年以上経過
　※MR 装置操作技術に関連する学術７団体（日本磁気共鳴医学会，日本医学放射線学会，放射線専門医会，日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会，日本臨床衛生検査技師会，日本画像医療システム工業会）
2　MR 操作経験：経験年数不問
3　学術成果：MR に関する学術研究発表３回以上、または学術誌への論文１編以上

【服務の取り扱い】

職域団体での審査のうえ、各種研修、学会へ出張派遣します。
（参加費、旅費、認定料等公費負担）

助産師への道（県立病院の内部養成制度）　（養成実績４名）

【助産師内部養成制度】

県立病院で働く看護師で、助産師として働く意欲のある方の資格取得を全面サポートする制度です！

【対象者】

・在職１年以上かつ、概ね 30 歳未満の看護職員
　※医療局での選考後、教育機関の入学試験合格をもって正式決定

【服務の取り扱い】

・派遣中は出張の取り扱い（身分は医療局職員のまま）
・派遣中も**給与を支給**
・入学試験、修了試験等に出席するための**旅費を支給**
・**入学検定料、入学金、授業料及び実習料を医療局が負担**

【資格取得後の勤務先】

免許取得後は、原則として県北・沿岸の県立病院で勤務していただきます

医療局ホームページにバックナンバーを掲載していますのでご覧ください☆
【問合せ：医療局職員課人事担当　☎019-629-6861　研修担当☎019-629-6321】

透析看護認定看護師

久慈病院　人工透析室　看護師

向山　いつか　さん

Q　資格を取得しようと思ったきっかけを教えてください

維持血液透析を受ける患者さんと関わる中で、透析を受け入れられていない、自分の疾患や血液透析を十分に理解ができていない患者さんがいる事に気が付きました。透析療法は、腎機能の一部を代替する治療法のため日常生活での制限があり、患者さんが主体的に治療に取り組む必要があります。患者さん自身が納得して治療を受けられるようサポートをしていきたいと思い、資格取得を目指しました。

Q　資格取得までの流れを教えてください

医療局の認定看護師教育専門課程派遣への応募、審査を受けて内定を頂きました。その後、認定看護師教育過程を受験し、6 カ月間教育課程で学びました。入学試験に向けては、透析看護認定看護師の先輩からアドバイスを頂いて、透析看護の基礎知識の見直しやガイドラインを読むなどの準備をしました。

Q　研修中の様子を教えてください

一番印象に残っているのは、1 月の病院実習に向けた、12 月の事例検討のグループワークです。ほぼ 1 カ月かけて看護過程をグループワークで行いました。繰り返される担当教員からの「アセスメントの根拠は？」との問いかけにグループの全員が何が正しいのか分からなくなる日々でした。今、振り返ると、苦しくも充実した時間であり、その後の臨地実習を乗り越える力にもなったと思います。そして、同じ目的を持った仲間との出会いが一番の収穫です。

Q　資格取得後の院内での活動状況を教えてください

普段は透析室で業務をしています。週 4 時間の認定看護師としての活動時間では、透析室や病棟での勉強会の準備や実施、患者カンファレンスの企画・開催に関わっています。昨年度からは、泌尿器科外来で透析導入が近くなった保存期の患者さんへの腎代替療法の説明や、シャント造設した患者さんへの自己管理指導を行っています。

Q　これから資格取得を目指す方へアドバイスをお願いします

透析看護認定看護師を目指すと声に出してから、院内・院外のたくさんの人とつながり、支援を頂くことができました。資格を取得して看護をしていきたいという目標がある人は、ぜひ声に出して欲しいと思います。道が開ける可能性が各段にアップすると思います。

Q　その他、皆さんに伝えたいことがあればお願いします

透析看護認定看護師は、2020 年末現在で全国 238 名の少数の分野です。岩手県内に 3 名、その内医療局には 2 名在籍しております。認定資格の取得や、それ以外でも、腎不全看護に興味のある方は、ぜひ声をかけてください！

私が岩手県立病院を選んだ7つの理由　☆絶賛 YOUTUBE で公開中　宮古オールロケのショートドラマも併せてご覧下さい！

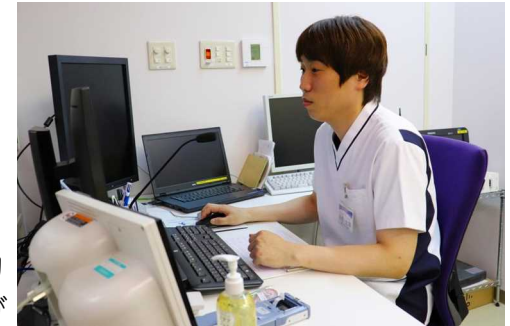
岩手県立病院　検索

7つの理由

ショートドラマ

上級磁気共鳴(MR)専門技術者

中央病院　放射線技術科　主任診療放射線技師

髙橋 大輔　さん

Q　資格を取得しようと思ったきっかけを教えてください

MRI は1回の検査で様々な種類の画像を撮って比較することで、病気を見つけたり良悪性を判断する検査です。検査時間が比較的長いため、病気や患者さんの状態に合わせて撮影順や撮像条件を調整することも少なくありませんが、痛みや体調不良から検査が思うように進まず、中断・中止となることも多々経験してきました。そのような経験から、MRI についてもっと理解を深め、少しでも患者さんの負担を減らしたい、もっと診断・治療のしやすい画像を撮れるようになりたいという思いから、MRI に関する勉強や研究を始めるようになりました。勉強を始めて数年後に資格制度が設けられ、さらなる専門知識や技術の習得と自己研鑽のために資格取得を目指しました。

Q　資格取得までの流れを教えてください

磁気共鳴(MR)専門技術者の取得には、関連学会で MR に関する研究発表を複数回行うか診療放射線技師会の講習会を修了し、所定のレポート等による書類審査を経て筆記試験に合格する必要があります。さらに、上級 MR 専門技術者の取得には、合格後5年間に学会・研修会等参加による必要ポイントを取得することと、1編以上の学術論文が関連学会誌に掲載されることが必要になります。

Q　研修中の様子を教えてください

MR 専門技術者は検査に関する知識だけでなく、MRI 特有の磁場・電磁波の安全性に関する知識も大変重要で、MR 医療安全研修を受ける必要がありました。研修では物理作用だけでなく規格や法令等についても学びましたが、学生時代に習ったことや臨床経験で学んだことだけでは全く知識が足りないことを痛感し、非常に勉強になりました。

Q　資格取得後の院内での活動状況を教えてください

より良い検査が行えるように日々の画像の確認と撮像条件等の調整を行っています。MRI は他の放射線検査とは検査環境が異なることから、現在、検査フローやマニュアル作成等の安全性に関することに特に力を入れています。また、学会や研修会・論文等で得た知識をもとに、医師へ検査内容の提案を行うこともあります。

Q　一日の業務スケジュールを教えてください

その日の検査予定を確認し、2台ある MR 装置でどのように検査を進めていくかスケジューリングを行います。それと同時に患者さんの体調等を確認し、画像の撮る順番や撮像条件の変更等をその日の担当者と共有し業務を行っています。

Q　これから資格取得を目指す方へアドバイスをお願いします

MR 検査のニーズの増加とともに、医師から助言を求められる機会も大変増えています。助言には経験も必要ですが、何より正確かつ最新な情報が求められると思います。資格取得・維持のためには多くの学会・勉強会に参加する必要があり、必然的に知識を深めることができます。少しでも患者さんの生活の質の向上に繋げられるように、専門的な知識を深めて欲しいと思います。

Q　その他、皆さんに伝えたいことがあればお願いします

MR 専門技術者は岩手県内にまだ 6 人しかいないまだまだ少ない資格です。いくつかハードルがあるかもしれませんが、資格取得は興味や向上心の先にあるものと思っています。興味のあることはきっと乗り越えられるはず！MR 専門技術者となって是非一緒に安全かつ質の高い MR 検査に取り組んで行きましょう！

助産師内部養成で助産師資格を取得

久慈病院　3階東病棟　看護師兼助産師

日當　沙也佳　さん

Q　**資格を取得しようと思ったきっかけを教えてください**

子どもの頃から赤ちゃんが好きで、看護学生の頃には新生児・小児看護に興味がありました。社会人となって久慈病院の3階東病棟に配属となり、助産師の先輩方の姿に憧れ、自分も母子を支えるお手伝いがしたいと思いました。

Q　**資格取得までの流れを教えてください**

最初に医療局で派遣候補者の面接があり、そこで受験を認めていただき助産学校の一般試験を受験しました。進学後の病院勤務は学校の長期休暇時のみで、学業に専念することができました。

Q　**養成学校在学中の生活はどのような感じでしたか**

好きな分野の勉強に専念でき、とても恵まれた時間でした。課題が多いことや久しぶりの座学は大変でしたが、助産実習は日々楽しく、多くを学ぶことができました。

Q　**資格取得後の院内での活動を教えてください**

脳外科・整形外科・産婦人科・小児科などの混合病棟であることや地域・病院機能の特性から、妊婦さんや褥婦さんがいない場合もありますが、毎日助産業務に携わることができるように分担していただいています。助産師となって 2 年目になりますが、分からないことも多く先輩方にたくさん助けていただきながら、業務に当たっています

日當さん(左上)と助産師チームのみなさん

（ある１日の業務内容）

時刻	内容
8：30	出勤　申し送り
9：00	情報収集　ＰＮＳペアとのすりあわせ
10：00	バイタルサイン測定、患者対応、沐浴
10：30	陰部洗浄、清拭などのケア
11：30	休憩（1 時間）
12：30	食事介助、内服確認
13：30	カンファレンス　勉強会
15：30	オムツ交換
17：15	退勤

Q　**これから資格取得を目指す方へのアドバイスをお願いします**

１年間業務を離れることや、在職しながら資格取得に向けてチャレンジすることは大変というイメージもあると思います。しかし、学ぶ時間も金銭的な面もしっかりサポートを受けられ、安心して１年間養成校で学ぶことができました。資格取得により、自分のやりたいことができ、仕事に対する意欲も高まると思いますので頑張ってください。

Q　**その他、皆さんに伝えたいことがあればお願いします**

この場をお借りして助産師学校受験を応援・サポートしていただいた皆様に感謝いたします。周囲のサポートがあってこそ実現できた助産師資格取得だったと感じております。本当にありがとうございました。